

〔第169回明専塾（ルネサスエレクトロニクス）〕

ルネサスの明専塾に参加した感想

工学府機械知能工学専攻M1 亀谷 洋大



明専塾に参加したきっかけ

私が今回の明専塾に参加しようと思ったのは、私は研究室でシミュレーションのコードの専用プロセッサへの移植をした経験からプロセッサや情報処理に興味があったからです。そこで、国内有数の半導体メーカーであるルネサスの明専塾に参加し先輩社員のお話を伺い半導体業界やルネサスの事業内容への理解を深めたいと思いました。また私は去年の学内合同企業説明会にアルバイトとして参加しており、その時偶然にも担当している教室でルネサスの説明会が行われており、お話を聞くことができました。その時、ルネサス

の事業内容や九州工大の先輩社員が活躍されていることを知り、かなり興味をもつようになりました。

講演会の感想

講演会ではまず藤崎様から簡単な経歴の紹介があり、現在では多くの部下を持つ立場となっていることから、大変活躍されていることがわかりました。また半導体業界は年に7パーセントの成長を続けていることが紹介され、半導体業界は将来性のある業界であることがわかりました。ルネサスが持つ先端技術の紹介としてはフラッシュ内蔵型マイコンの製造プロセスで28nmに達しており、これはフラッシュ内蔵型マイコンとしては最先端のプロセスであることを紹介され、ルネサスが半導体製造プロセスにおいて世界最先端の技術を持っていることがわかりました。組み込み製品の紹介として、MCUマイクロコントローラは大手の自動車部品メーカーや工作機械メーカー

に納入していることが紹介され、産業の根幹を支えている製品であることが理解できました。

講演会では外国人技術者に関することも説明されました。日本企業においても日本人エンジニアの比率が下がっていることを紹介され、外国人エンジニアと仕事をすることは避けられないことがわかりました。特にベトナムのエンジニアは基礎学力において日本人と同等でありながら高いモチベーションと向上心があり、安い給料で働いていることを説明されました。そうした技術者に仕事を持つていかれないためには自分の仕事の価値を認めてもらうかということを考える必要があるというお話を伺いました。私は外国人技術者と仕事について競合することはあまり考えてこなかったため、そのような視点が提供されたのは参考になりました。

懇親会の感想

懇親会でも学生の人数は私が参加した明専塾の中では比較的少なかったため、よくお話を聞くことができました。仕事の苦労した点として、部下が多くなると自分だけでなく部

下の仕事についても責任を負うことになり責任を感じておられることがわかりました。部下をもつ立場になるということは大変だということが実感できました。

ルネサスの自動運転の事業については安全に車を停止させるシステムなどが紹介されましたが、そうした高い信頼性が求められるシステムでシェアを持っているというお話を伺いました。自動運転においては多くの企業が参入しているのは知っていましたが、ルネサスがどのような分野においてシェアを持っているかということについて理解が深まりました。また学生の期間よりも会社員になってからのほうが長いことから、学生時代の専門分野が違っても学び続けることによって必要な知識が得られるというお話を伺いました。多くの分野に興味を持ち主体的に学んでいくことが社会人になってからも重要であることを実感しました。

今回の明専塾は先端技術に関するお話を多く伺うことができました。組み込みシステムや半導体に興味のある学生はぜひ参加すると思います。

（平成31年3月記）